



東 俣 野 7月号

東俣野小学校 学校だより 令和8年6月30日

夏休みは、わたしが主役 ～自由を生かす力を育む～

校長 幸保 陽子

もうすぐ、子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。

学校では、授業や休み時間、給食の時間など、一日の流れが決まっています。しかし、夏休みは少し違います。学校の時間割から離れ、自分で使える時間がぐっと増えます。それは、子どもたち一人ひとりが、自分の時間の主人公になれるということです。

自由な時間がたくさんあることは、とても素敵なことです。好きな本を読んだり、興味のあることを調べたり、家族と過ごしたり、普段はなかなかできないことに挑戦したりすることができます。

しかし一方で、自由には、難しさもあります。人は自由になると、つい楽な方へ流されがちです。「あとでやろう」「明日でいいか」と思っているうちに、一日が終わってしまうことがあります。これは、子どもだけでなく、大人も同じです。

だからこそ、自由が増える夏休みは、自由について考える機会でもあります。

自由な時間があるからこそ、「今、自分にとって大切なことは何だろう」「夏休みが終わったとき、どんな自分になっていきたいだろう」と自分に問いかけることができるのではないのでしょうか。自由な時間には、たくさんの選択肢があります。遊ぶのか、読書をするのか、外に出るのか、家で過ごすのか。その一つ一つは小さな選択ですが、その積み重ねが一日をつくり、夏休みをつくり、やがて自分自身をつくっていきます。自分で考え、自分で選び、実践してみる、そのような経験を重ねることで、単なる楽しさだけでなく、自分を成長させる力へと変わっていくのだと思います。

そして、そのような力を育てるためには、子どもだけでなく周りの関わりも大切です。

私たちは、子どものことを思うあまり、つい先回りをしてしまうことがあります。しかし、子どもたちが本当に身に付けなければならないのは「言われたことをする力」だけでなく、「自分で考え、選び、決める力」なのでしょう。夏休みは、その力を育てる絶好の機会です。大人が「今日は何をするの？」「どんなことに挑戦してみたい？」「やってみたらどうだった？」と問いかけながら、子どもが自分なりの答えを見つけるのを見守る。すぐに結果を求めるのではなく、考えたり迷ったりする時間も大切にするとよいのかもしれません。

夏休みは、子どもたちが自分の時間の主人公となり、「見つける・考える・やってみる」を実践しながら、自分らしい成長を重ねられることを願っています。

保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より本校へのご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。夏休みが子どもたちにとって実り多い時間となるように、引き続き温かい見守りをお願いいたします。